

未来がどうなるかではなく、どうするかが大事なこと

民放の衛星放送で、「戦争と人間」3部作（各部前後編）の延べ9時間強の映画が数日に分けて放映された。

ご存じのように、五味川純平原作の同名大河小説の映画で、昭和3年の5.15事件から昭和12年の日中戦争勃発、関東軍とソ連軍が激突するノモンハン事件（昭和14年）を背景に、新興財閥一家の姿を柱としてその周辺の人々が第二次大戦突入期の満州を舞台にくりひろげられる複雑多岐な人間群像ドラマで、反骨精神旺盛な骨太な社会派と言われた山本薩夫監督の映画史に残る超大作。

1970～1973に上映され、就職間もない頃に映画館に通い観賞していたが、改めて録画して見た。

反戦文学一筋を貫いた五味川純平は、自らの従軍体験を基にし、戦争という特殊事態の中での人間愛の大切さを訴えた長編小説「人間の条件」（上・中・下巻）は1300万部という戦後空前のベストセラーでも有名で、これも当時、TVドラマ化、映画化され、これも当時見た。

いずれの作品も、無名の人たちの運命が戦争の中で翻弄され、屈折を余儀なくされていく姿が描かれている。

来週からは8月で終戦記念日もあることから、毎年この時期になると先の戦争の検証番組、また、戦争に翻弄された人たちの人間ドラマ等が各局とも編成するが、自分は自分の中で戦争というものを風化させてはいけない、また、先の戦争で失われた尊い命を礎として今をこうして生きている者の努めのようにも思い、出来る限り関連番組を見るようにしている。

番組を目にすることで、国家による戦争行為というものが、名もなき人たちにとってどういった行為であったのかを、自分の中での再確認作業の一つと思っている。

映画の背景は昭和14年までなので、先の戦争の終戦まで描かれていない。

したがって本当は小説や映画に描かれたドラマも終わっていない。このことは、今を生きる我々にどういったドラマの続きを描こうとしているのかを問うているとも云える。

さて、今週末は参議院議員の投票日。

誰に、どの政党に投票するかは、我々によるドラマの続きをどう描こうとしてのかを問われていることでもあろう。

「未来がどうなるかではなく、どうするかが大事なこと。」と云う言葉を、再認識させられる映画観賞の一時であった。